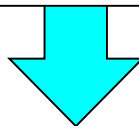


学校教育目標
学校の教育目標 互いの人格を尊重し、真理と正義を求め、公共の精神を求め尊び、豊かな人間性と創造性を備えた児童の育成を目指す。 愛 知恵と命を愛する人 誠 誠実さと真心を大切にする人 剛健 心と体をきたえる人

令和5年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
主体的に学ぶ児童の育成 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」のそれぞれを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの授業展開及び、学習評価を充実させ、児童の力を最大限に引き出していく。

指導の重点（各教科）
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視し、児童の興味・関心を生かし自主的、自発的な学習を促す。 ・基礎的、基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力のバランスを重視する。 ・ICT機器を効果的に活用して、児童が意見や考え、思いを表明し、学び合わせることで主体的・対話的で深い学びを充実させる。 ・全ての教科で、児童の実態に合わせて課題設定や解決方法を見いだせるよう教材開発を行う。 ・児童の主体的・対話的で深い学びの展開及び学習評価の充実を踏まえた授業改善に取り組み、個に応じた指導を行う。

指導の重点（総合的な学習の時間）
<ul style="list-style-type: none"> ・横断的・総合的な課題、興味・関心に基づく課題に対して、探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を一層充実させ、問題解決能力を育成する。 ・多様な人材や、地域の教材等を積極的に活用するとともに体験的な学習を取り入れ、学習活動の質的向上を図る。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
ICT機器及びAIドリル等を効果的に活用し繰り返し学習により、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。 習熟が不足している児童には、放課後学習教室等で補充的な学習を行う。	教科等において、資料を適切に読み取る力を育成し、判断の根拠や理由を明確にしながら自分の考えを述べる力を身に付けさせる。言語活動を意図的・継続的に行い、タブレットも活用して交流活動を充実させることで思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	指導と評価の一体化のため、単元や各時間の目標を明確にして、授業に臨む。また、評価を適切に行い必要に応じて、時数の調整をしていく。 区の学力調査の結果を分析し、傾向や課題から授業改善を行う。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
ICT機器を活用し、学習の定着状況に合わせて課題を出す等の個別化や、一人ひとりの学び方に応じた学習の個性化の充実を図る。 共同編集機能等を活用した情報共有を積極的に活用した探究的な学習や体験的な学習を通して「協働的な学び」の充実を図る。	各学級において、教室前方での「刺激量の調整」、授業での「時間の構造化」、「視覚支援」を行っていく。また、ワークシート等を工夫して作成し、児童に見通しをもって学習を受けられるようにしていく。	地域・保護者による放課後教室（鷺寺）や「おはなしの椅子」での読み聞かせ、「白鷺音読の会」での音読活動等の取り組みを、充実させていく。 一人1台端末を活用して、授業で扱った問題の習熟・発展問題を家庭で個別学習ができるよう家庭と連携を図り、児童が「自ら学び、自ら考える力」を育成する。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【小学校】

国語科における指導の重点

基礎的・基本的な言語・読み書きの習得と、思考力・判断力・表現力をバランスよく習得させるとともに、児童の意見や考え、思いを表明し、学び合わせることで主体的・対話的で深い学びを充実させる。

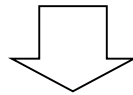
現状分析

区学力調査の結果分析

- ・国語全体では、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。
- ・「言語についての知識・理解・技能」は、どの学年もおおむね区・全国と大差なく目標を達成しているが、漢字を書くことに課題のある学年がある。今後指導を重ねたい。
- ・「思考」「判断」「表現」に関しては、おおむね区・全国と大差なく目標を達成している。文章を書くことに課題のある学年がある。
- ・経年比較では、達成率が上がっている学年と、下がっている学年がある。

教科指導上の課題

- ・漢字ドリルの練習、小テストに繰り返し取り組ませることなどで、正しく漢字が読み書きできるように指導する必要がある。文章を書くときには、既習漢字を使うことを意識させることが課題である。
- ・文章のまとまりを意識して、目的に応じた文章を書く指導を行う。報告文、感想文などそれぞれの文の構成に気を付けて書くことができるように指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	1年生…一人1台端末を利用すると、児童の個別内容が学級全体に共有しやすいため、単元や指導内容に応じて効果的に活用する。 2年生…コラボノートやミライシード等を活用して個人の意見を書き、グループや学級全体で共有し、考えを深めさせる。	1年生…仮名遣いや助詞、句読点やかぎかっこの使い方、平仮名や片仮名の読み書きや基礎的な使い方を理解して文章で使うことができるように、視写や聴写などを取り入れながら繰り返し指導する。 2年生…新出漢字をドリルで学習した後、漢字テストを行い、間違えた漢字は繰り返し練習して正しく読み書きできるように指導する。読解力をつけるために、細部を正確に読み取れるように指導する。
3・4年生	3年生…物語や説明文の読み取りでは、叙述から内容を個別に捉えられるようにする。コラボノートなどを活用して友達と考えを伝え合い、深い学びにつなげていく読み方ができるように指導する。 4年生…自分の考えを深めたり、考えたことを表現・共有したりする場面においてデジタル教科書やコラボノート等を活用できるように指導する。	3年生…毎日新出漢字の練習、または漢字ドリルを使った学習を行い、日々の小テストに繰り返し取り組ませることで、正しく漢字が読み書きできるように指導する。 4年生…新出漢字と共に、今まで学習した漢字も合わせて学習できるよう、AIドリルを活用しながら基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるように指導する。

5・6年生	<p>5年生…文章を読み取るときに、デジタル教科書を提示することで全員に同じ文章を読ませながら効果的な指導をする。</p> <p>6年生…話し合い活動を通して、様々な考え方に触れ、読み方の幅を広げたり自分の考えを広げたりできるようにする。そのためにデジタル教科書やICT機器を活用し、一人ひとりの考えを全体に共有できる環境づくりをし、指導に生かしていく。</p>	<p>5年生…デジタル教科書を活用することで、古文の音のリズムについて理解を深めさせる。</p> <p>6年生…朝読書や図書の時間など本に触れる機会を増やし、知識の向上や文章を理解する力を養っていく。また、音読を繰り返し行わせ、記憶力や話す力を高めていく。漢字について、AIドリルを活用し、定着を図る。</p>
-------	---	---

(2) 社会科

【小学校】

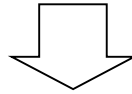
社会科における指導の重点

- ・位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、社会的事象をとらえ、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることができるように指導していく。
- ・学習の問題を追究、解決する活動を充実させる。

現状分析

教科指導上の課題

- ・児童一人ひとりが資料から社会的事象について読み取ることができるように、資料を読み取る視点を示し、理解を深めさせていく必要がある。
- ・児童が調べたいことを学習問題にまとめ、児童と共に「何を」調べるのか、「何で」調べるのかを意識した学習計画を立てるなど社会的事象を身近にし、自分事として捉えることができるようにする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	3年生…身近な地域の特徴に関心をもたせ、学習問題を見いだして区内の様子や特徴に気付かせる。わかったことを友達と共有して、学びを深める 4年生…調べる内容を明確にしたうえで、児童が自ら調べる方法を選んだり、問いを解決する時間を十分にとったりする等、児童の主体的な学習を促していく。	3年生…資料や写真、一人1台の端末、地図などを手掛かりにして、中野区の特徴について調べ学習を取り入れながら、分かったこと、考えたことをノートなどにまとめさせる。 4年生…資料を読み取る視点を示すことで、1単位時間の「問い」を解決できるようにする。
5・6年生	5年生…デジタル教科書を使用できることで、様々な資料を提示でき児童同士の活発な議論につながるような指導を行う。 6年生…資料を提示し、読み取ったことや考えたことを発表させる。読み取った視点を全体で共有し、次回以降の資料の読み取りに生かしていくよう指導する。	5年生…資料や写真、一人1台の端末、地図などを手掛かりにして、調べ学習を取り入れながら、分かったこと、考えたことをノートなどにまとめる活動を行う。 6年生…デジタル教科書にある写真や、動画を活用し、自分たちが資料から読み取ったことの確認をするとともに、学習を通して分かったこと、考えたことを自分の言葉でノートにまとめさせる。

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

算数科では、児童が数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けること、また、それらを用いて日常の事象について自ら考え、問題を解決し、相手に分かりやすく伝えることができるようになることを重点とする。そのため、少人数・習熟度別学習集団による個に応じた指導を充実するとともに、指導と評価の一体化を目指した授業力の向上を図り、問題解決的な学習を重視した授業づくりをし、展開していくようにする。

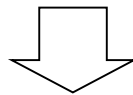
現状分析

区学力調査の結果分析

- ・達成率に関して、5学年中3学年で7割を上回っている。
- ・全体的な傾向として「数と計算」領域の理解は高いが、「図形」「測定」領域の理解が低いので、今後も継続して授業改善を図っていく。また、記述形式に慣れていない児童がいる様子なので、授業に取り入れていくようにする。

教科指導上の課題

- ・「図形」「測定」領域の基礎・基本を押さえた指導をする必要がある。
- ・デジタル教科書やタブレット教材「キュビナ」を適宜使用して基礎・基本の定着を図る。
- ・自分の考えを書いて表現するなど、記述形式を取り入れた問題解決学習の授業展開をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	1年生…一人1台の端末を利用することで、児童一人ひとりの考え方を学級全体で共有させ、単元や指導内容に応じて効果的に使用する。デジタル教科書を活用し、学習課題等を学級で共有して学びを深めさせる。 2年生…問題場面を把握して自分の考えをもてるようにするために、具体物を操作したり、デジタル教科書を活用して視覚的な理解を促したりする。考えを発表する際には、ICT機器を活用して学級全体で共有できるようにし、友達の影響から学ぶ時間を確保する。	1年生…一人1台の端末を使って、キュビナ等のアプリを活用したり、デジタル教材や計算カードを使ったりして、繰り返し反復演習させる。時計等の具体物を使用して、楽しみながら学習をさせる。 2年生…授業の振り返りや習熟の時間、宿題等において、教科書の問題だけではなくA Iドリルも活用して基礎的・基本的な内容の定着を図る。
3・4年生	3年生…単元前のレディネステストで習熟度をしっかりと把握した上で授業を構成する。自分の考えを共有する際の手立て(ノート・Google機能・デジタル教科書)は単元や指導内容に応じて、適切に活用する。 4年生…デジタル教科書を活用し、視覚的な理解を促したり、具体的な操作をしたりする中で、自分の考えをもてるようにする。ペア学習やグループ学習の際にICT機器を活用し、自分の考えを共有したり友達の影響から学んだりする時間を確保できるように指導する。	3年生…朝の時間や宿題、授業の振り返り時には、教科書の問題だけでなく、A Iドリルを活用して基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるように指導する。 4年生…授業の始めや宿題等で計算の技能の習熟を図ると共に、A Iドリルを活用しながら基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるように指導する。

<p>5・6年生</p>	<p>5年生…ICT機器を活用し、より空間認知を高め、理解の定着を図る。また、具体的操作をしたりする上で概念的操作につなげられるようにする。また、全体で文章の内容をよく整理し、まず自分で立式し、図式化する。自分の考えを周りに共有していくことで、自分の考えに自信をもてるようにする。</p> <p>6年生…「B 図形」・・・図形の単元でなくても、授業開始時に、図形を描かせたり（百マス計算に取り組みさせる感覚と同様）、その日のめあてを達成した児童には、図形を描かせたりと繰り返す中で、図形の性質を理解させていく。また、問題を解く前に、空間や広さ等を想像させる。</p> <p>「C 変化と関係」・・・問題を解く前に、文章題や表の意味をよく確認させ、イメージを共有化したり、生活場面を想像させたりする。また、ただ問題を解くのではなく、出した回答が、予想数値、数量に近いかどうかを確認させることで、量感に慣れ親しませる。</p>	<p>5年生…家庭学習でAIドリルを活用し、苦手な問題を繰り返し解くことで基礎・基本を身に付けるようにする。必要に応じて個別指導をし、理解の定着を図る。</p> <p>6年生…家庭学習で、AIドリルを活用しながら基礎的・基本的な内容の定着や計算技能の習熟を図ることができるよう指導する。</p>
--------------	---	---

(4) 理科
【小学校】

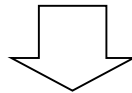
理科における指導の重点

今年度もより一層問題解決的な学習になるように指導の重点をおく。理科においては、自然の事物・現象に自ら働きかけ、そこから問題を見だし、主体的に問題を解決する活動が必要とされる。そのために理科における資質・能力を育てる学びの過程として「①自然の事物・現象に対する気付き→②問題の設定→③予想の設定→④実験計画の立案→⑤観察・実験の実施→⑥結果の処理→⑦考察の展開→⑧結論の導出」といった過程が考えられる。これらの過程の中で、問題解決の力に関わる資質・能力を育てることが重要である。

現状分析

教科指導上の課題

- ・どの学年においても問題解決型の学習の流れは身に付いているが、より一層観察、実験からの考察などを通した問題解決の力を身に付けさせていく。
- ・考察の展開を充実させるために、ICT機器を活用して観察、実験の記録を写真や動画で端末に保存させたり、記録や自分の考えを共有できるような授業展開をしたりする必要がある。また、複数の自然の事物・現象や観察、実験の結果などを比較し、差異点や共通点を整理できるように指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	3年生…身近な生き物や自然の事物・現象に関心をもたせ、これらに直接触れる時間を十分に確保し、気付きや疑問などを引き出す時間が必要である。また、観察の経過や実験の様子を一人ひとりが正確に記録をとり、考察と結果に生かせるようにする。 4年生…ICT機器を活用し、実験の様子を撮影することで実験結果を確認しながら考察をしたり、撮影した写真や動画を共有することで、必要に応じて自分のグループや他のグループの実験結果を確認したりできるように指導する。	3年生…ICT機器を活用し、必要に応じて動画や実験の手順を全体提示したり、観察の経過や実験の様子を撮影したりする。また、写真や動画を共有することで、実験結果を確認できるようにする。 4年生…学習問題の解決手順（問題→予想→計画→観察・実験→結果→考察）を毎単元で行うことと、AIドリルを活用しながら基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるように指導する。
5・6年生	5年生…ICT機器を活用し、記録写真や経過記録を端末に保存させる。児童が必要に応じて判断しながら考察できるようにする。保存した記録をペアやグループで共有できるようにする。 6年生…ICT機器を活用し、実験の様子を撮影させることで実験結果を確認しながら考察ができる。また、撮影した写真や動画を、自他のグループと共有して、実験結果を確認するように指導する。	5年生…学習問題の解決手順を毎単元で確認することと、AIドリルを活用しながら学習事項の基礎基本が定着できるようにしていく。 6年生…学習問題の解決手順（問題→予想→計画→観察・実験→結果→考察）を毎単元で行うことと、家庭学習では、AIドリルを活用しながら基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるように指導する。

(5) 生活科

【小学校】

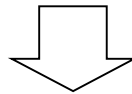
生活科における指導の重点

生活科の学習では、具体的な学習や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわり等に関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身につけさせて、自立への基礎を養うことが求められる。そのために具体的な活動や体験を通して身近な生活に関わる見方や考え方を育成し、自立して生活を豊かにできるように指導していく。

現状分析

教科指導上の課題

児童に自然や生き物と触れ合ったり、季節を感じたりする活動（シャボン玉や水鉄砲で遊ぶ）や体験的な活動（お手伝い大作戦、動くおもちゃを作る等）を充実させることで、達成感や充実感、自己肯定感、一体感などを児童に可能な限り感じ取らせる。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	1年生…アサガオ等の植物の観察時に一人1台の端末のカメラ機能を用いて、拡大して細部まで詳しく観察をさせる。気づいたこと等、個々の観察内容をコラボノート等で共有し、学びを深めさせる。 2年生…トマト等の植物の観察時や地域の場所を調べる時に、タブレット端末を使用して学習させる。カメラ機能を使って撮影し、拡大して細部まで詳しく観察できるようにしたり、メモ機能を使って、気づいたことをすぐにタブレットに記録したりできるように指導する。	1年生…具体的な活動や体験（見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ等）を通して、楽しさや気づいたことを言葉、絵、動作、劇化など多様な方法によって表現する際に、一人1台の端末を活用して、撮影や動画の機能を活用し、児童が表現したいという意欲を引き出すように指導をする。撮った写真や動画をクラスで共有して、学習を深める。 2年生…野菜作りの他に生き物を飼育する活動など、直接的な体験的活動を多く取り入れ、変化や成長の様子に関心をもって働きかけたり、気づいたりできるようにする。

(6) 音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点

表現及び鑑賞の活動を通して、児童が音楽に対する感性を働かせ、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、互いに尊重し、学び合い、協働して学習に取り組めるようにする。児童一人一人が音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習活動を工夫し、発達の段階に応じた「知識及び技能」の習得、「思考力・判断力・表現力など」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を実現するために以下を重点項目とする。

- ・誰もが表現することに自信をもって活動し、自分や友達の個の表現を尊重できるようにする。
- ・視覚的に見やすく、分かりやすい教材の工夫をする。
- ・毎時間の学習のねらいを明確にし、身に付けた力を実感できるようにする。
- ・題材全体の見通しをもてるようにする。(ワークシート、目標の提示等)

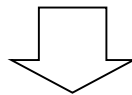
現状分析

教科指導上の課題

リコーダーに苦手意識のある児童に対して、個別指導を充実させるとともに、確かな評価を行って成長を意識させ意欲づける必要がある。

歌うことは大好きで元気に歌う子が多いので、発声の仕方を指導し、歌詞にあう歌声について指導を行う。さらに、自分や周りの声を意識させる。

鑑賞の仕方を指導し、音楽の良さや美しさを感じ取り、味わって聴くことの指導が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	1年生…曲想を感じ取って歌うことや、発声の仕方や音程に気をつけて歌うことなどを個々に意識させる。端末のビデオ機能なども用いて自分が歌っている様子や演奏している場面を見て振り返り、課題をクラス全体で共有する。 2年生…鍵盤ハーモニカ等の楽器の学習では、ICT機器を活用し、模範演奏の映像や音を視聴しながら楽器の奏法やリズム、テンポなどを確認する。また、録音用キーボードを使って、ペアや個別練習に取り組めるように工夫する。	1年生…範唱を聞いて歌わせたり、階名で歌わせたりして、歌う技能を身に付けさせる。鍵盤ハーモニカは、タンギングや運指に注意をさせ、基礎的な音階練習を反復し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。歌詞や楽譜等を大画面に映し、活用する。 2年生…授業の導入時に、領域や教材に合った活動内容を工夫する。また、一人ひとりの演奏表現する時間を設定したり、友達と一緒に少人数で演奏したりするなど、客観的に自分の演奏を振り返る時間を設ける。
3・4年生	3年生…リコーダーに苦手意識のある児童も多いので、児童が演奏したいと思えるような親しみやすい曲や短く取り組みやすい曲を多めに用意し、達成感をもたせる。個人やグループで発表する時間を増やし演奏を聴き合うなどの学びの場をもつようにする。 4年生…器楽学習において個人で練習する時間を有効に活用できない児童が多い。児童同士で関わり合いながら学習を進めていく。	3年生…リコーダーの運指や姿勢、指の押さえ方の指導では、イラスト、映像、教師の模範演奏などを繰り返し丁寧に視聴、指導し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 4年生…効率的な練習方法を教師側から提示したり、毎回、練習時間を設けたりして、個別に教員が聴いてその場で評価や指導ができるようにする。

5・6年生	<p>5年生…合奏の学習ではICT機器を活用し、模範演奏の映像や音を視聴しながら楽器の奏法やリズム、テンポなどを確認し、個別に練習に取り組めるよう工夫する。</p> <p>6年生…児童自らが課題を見いだしたり、一人一人の思いや工夫点をワークシートやICT機器を使って、全体で共有したりする場を設ける。</p>	<p>5年生…歌唱やリコーダーの学習では、ペアやグループごとに練習を行ったり友達同士で聴き合ったりするなどの活動で、児童同士で体の使い方や運指、音の響きなどについて意見を言い合える場の設定をする。</p> <p>6年生…自身の演奏をICT機器で録画し、友達同士で聴き合う活動を取り入れて互いに振り返られるようにする。</p>
-------	--	--

(7) 図画工作科

【小学校】

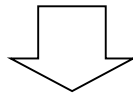
図画工作科における指導の重点

児童の興味関心をいかし、ゆたかな発想が促されるよう、題材を精選し、授業の導入を工夫する。
児童が試しながら知識・技能を習得できる時間の設定と、思考力・判断力・表現力を発揮できるような支援をする。

現状分析

教科指導上の課題

活動に集中して意欲的に取り組めない児童に対して課題を分かりやすく捉えさせる指導が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	活動に意欲的に取り組むことができ、作品を鑑賞しながら遊びへと発展するなどの児童相互の関わりも豊かである。 友達と関わりながら自分の表現ができるよう、さらに声かけをしていく。	自分の表現の意図をアピールできる児童が多い。 それを聞き取り、認めながら意欲の向上を図る。 つまづいている児童には、発想や技術などの原因を探し、個別指導をして取り組ませる。
3・4年生	自分の発想やイメージを大切にでき、それを表現に向けることができる。 活動の進度などに個人差が大きいので、友達の表現を参考にさせたりしながら相互に学び合う場をつくるのが大切である。	中学年特有ののびのびした発想を表現につなげられるよう、声かけするとともに、適切な用具や素材、表現方法を児童と試したり提示したりしていく。
5・6年生	経験を重ねる中で、児童相互の教えあいや学びあいも盛んである。友達との関わりの中で自分らしい発想ができなかったり、ICT機器で目にする絵などを参考にしすぎたりする傾向があるので、自信をもって自分の表現をできるように支援していく必要がある。	活動の中で技術的におさえたいところ、自由に活動させたいところを明確に児童に伝えるよう、全体指導を工夫する。 児童が自信を持って試しながら活動できる場を確保する。

(8) 家庭科

【小学校】

家庭科における指導の重点

家族や家庭衣食住消費や環境などについて日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともにそれらに係わる技能を身につける。

日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し様々な解決方法を考えられる。

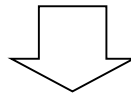
家庭生活を大切に、家族や地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようと工夫する態度を身につける。

その力を身につけさせるために、家庭で取り組めるよう、ワークシートなどを用意し、技能の向上にも努めていく。技能を高めるために繰り返し行っていく。

現状分析

教科指導上の課題

興味のある単元とそうでないものの差がある。裁縫の技能面に関して差がある。児童の生活に関わる学習をすることを理解させるとともに、映像資料などのICT教材を活用し、知識を確実に理解させる必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・実生活で実践する課題を提示し、学習した内容が活かせる活動を計画的に行えるよう指導する。・計画的に裁縫の時間を確保し、児童の活動時間を増やす。・個人に対して教えることのできる場や映像資料などを見られる機会を増やし、練習できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・計画的に裁縫や調理など実習時間を確保し、児童の活動時間を増やす。また、個人に対して教えることのできる場や「裁縫」「調理」の映像資料などを見られる機会を増やし、練習できるようにする。

(9) 体育科

【小学校】

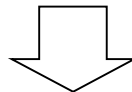
体育科における指導の重点

基本的な運動技能を身に付けさせ、運動の特性や楽しさを理解させていく。そのために、準備運動や体づくり運動を通して基本的な体力や動きを身に付けさせる機会を設定したり、ICT機器や学習カードの活用、練習方法の提示を通して、運動の特性を理解できるようにしたりする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・準備運動や器械・器具を活用し、様々な運動動作に取り組めるように指導する必要がある。
- ・運動動作のポイントや自己の課題についての理解など、ICT機器の効果的な活用の仕方を身に付けさせていく。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	1年生…全ての児童が運動あそびを楽しく行うことができるように難易度別課題や様々な活動の場などをつくる。きまりを守り、友達と協力することで、学びへ向かう態度を育成する。 2年生…器械・器具を使つての運動遊びや走・跳の運動遊びでは、一人1台の端末を活用して動画を撮り、自身の良い点や改善点に気付くようにする。また、ペア活動を通してアドバイスをし合うことができるようにする。	1年生…各種運動あそびの楽しさに触れ、活発に行っていく中で、運動種目として成立する以前の基本的な動きを幅広く身につけ、結果として体力の向上を図る。 2年生…準備・補助運動で、素早く反応する運動遊びや上下左右の動きを取り入れたリズム運動遊びなど、様々な動作を取り入れるようにする。また、走る、跳ぶ、ボールを使った運動などの基本的な動きを、ルールを守りながらゲームを通して楽しく身に付けられるようにする。
3・4年生	3年生…各領域で学習カードを活用し、個別に運動のめあてをもたせる。ゲームの運動領域では、お互いにアドバイスができるように、見るポイントを確認する。友達と協力して運動したり、認め合えるような声掛けを行ったりする。 4年生…学習カードを活用し、自分の課題を確認したり、友達と協力したりして学習に取り組むことができるように指導する。共有ドライブに技のお手本動画を準備し、いつでも確認できるようにする。	3年生…運動に効果的な場を設定して自分のめあてにあった場で運動できるようにする。一人1台の端末を活用し、自分の取り組みを振り返らせ、次に活かすようにさせる。 4年生…準備運動や体づくり運動を通して基本的な体力や動きを身に付けさせる機会を設定したり、ICT機器や練習方法の提示を通して、運動の特性を理解できるようにしたりして、基礎的・基本的な運動能力の定着を図ることができるように指導する。
5・6年生	5年生…学習カードや固定したメンバーでの活動を通して友達と協力して運動したり励ましあったり認め合ったりできるような声掛けを行う。 6年生…学習カードを活用し、自分のめあてを設定、運動後に、自分や友達の運動の振り返りを行い、次回以降の運動に生かせるようにする。	5年生…運動の様子をiPadで撮影し、すぐに自分の姿を見直せるようにすることで、基礎的運動能力向上をめざす。 6年生…ICT機器を活用し、運動の特性を理解できるようにする。 運動の様子を撮影し、自分や友達の姿を見直せるようにすることで自己の課題に気付かせ、改善する機会をつくる。

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

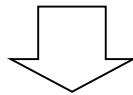
外国語活動・外国語科における指導の重点

各教科等との連携を図り、日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるために、ALTの音声を多用し「聞く」「話す」活動を重視し、対話的な活動時間を確保する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・どの担任も、きちんと見通しをもって、指導計画を立て、ALTと共有して、指導にあたる必要がある。
- ・英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを感じられるように指導する。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	3年生…デジタル教科書やALTを活用し、発音を繰り返し聞くことができるよう積極的に活用していく。 4年生…デジタル教科書の発音を繰り返し聞くことができるよう、授業で積極的に活用していく。ICT機器を活用し、音声を聞きながら発音練習に取り組むことができるように指導する。	3年生…単語だけではなく、絵や写真などについてもICT機器を活用して提示し、理解できるようにする。友達との交流の時間を毎時間確保し、基礎的・基本的な会話や表現の定着を図ることができるように指導する。 4年生…簡単な表現を用いて相手とやりとりする活動を毎時間確保し、コミュニケーションをとれた実感をもたせることと、基礎的・基本的な会話や表現の定着を図ることができるように指導する。
外国語科	5年生…デジタル教科書やALTの先生を活用し、何度も英語を反復させることで話すことに慣れさせていく。歌やゲームを通して、児童が楽しく活動しながら英語に慣れ親しめるように指導する。 6年生…デジタル教科書を活用して、積極的に音声を聞きながら発音練習に取り組むことができるように指導する。その際、単調に発音を繰り返させることがないように、リズムに合わせて音に慣れ親しませたり、ゲームを取り入れたりする。	5年生…日常と単元の繋がりがもてるように学習計画を立てる。読むだけでなく、書く活動も通してアルファベットが正しく書けるように指導していく。 6年生…「Today`s goal」を明確に示し、1時間のうちに、その一文を「聞く・読む・話す・書く」ことができるように指導する。定期的にキュビナを配信して、定着を図る。

(11) 特別の教科 道徳
【小学校】

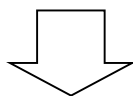
道徳科における指導の重点

教育活動全体を通して行う道徳教育について、「主として人との関わりに関すること」に重点をおき、互いに励まし合い、高め合おうとする心情を育てる。また各学年、発達段階に即した重点目標を設定し、道徳教育推進教師が中心となって、道徳教育の全体計画を作成する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・評価において、児童のワークシートや道徳ノートからの記述のみを評価するのではなく、教材に対する児童の取り組みの姿勢、友達との関わり方、発言など、道徳的価値に対して一人ひとりがどのように考え理解しているかを評価する必要がある。
- ・道徳授業において指導書通りの指導ではなく、教師が明確な指導観をもち、指導にあたる必要がある。
- ・学級や児童の実態に応じて、一人1台端末を効果的に活用していきたい。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉えるため、発言等を計画的にファイルや道徳ノートに蓄積し、児童の作文や発表などをもとに継続して変容を追う。児童が自己の成長を実感できるような自己評価や相互評価など、多様な評価方法を工夫する。
- ・指導観を明確にもつために、指導案よりも簡易化した道徳授業シートを作成する。この指導観のもと、発問を構成していく。
- ・事前アンケートや児童の意見の集約など、一人1台の端末を活用して児童に提示する。